



チャイム

2016 SPRING VOL.0

おはよう！ こんにちは！ ありがとう。

挨拶が飛び交う街をずっと続けていきたい。

家族のこと、子どもたちのこと、

そして暮らしの未来を考えながら、

あたたかなつながりを育んでいきます。

さあ、街じゅうに響きわたるように、
 歓びや楽しみの鐘を鳴らしませんか。



浜甲子園の街にわたかな音色を響かせる「chiMe」を通して、いろいろな情報や人々とながり、暮らしにやさしい音色が流れる。そして新しい音色をみんなでつくり出す。『chiMe』は、浜甲子園団地再生事業区域のエリアマネジメントを担当する一般社団法人 まちのね浜甲子園が発信する、この街にわたかな音色をわたらすための情報メディアです。

発行元：一般社団法人 まちのね浜甲子園（設立申請準備中）
編集長：谷 優香（HITOTOWA Inc.）
制作：株式会社ブレインワークス、マルエトワ株式会社
問い合わせ：info@hitotowa.jp

2017年の春から季刊紙として発行していきます。

「chiMe paper」は、2017年の春から季刊紙として発行していきます。「chiMe paper」では、2017年の春より、年に4回の季刊紙として、みなさんの生活に役立つ浜田市商の情報をお届けしていきます。本紙はその記念すべき「ゼロ号」です。そして2017年からコミュニティメディア「chiMe」は住民のみならずと協力しながら、文章を考えたり、写真を撮ったり、取材をしたりして一緒に制作を行っています。どうぞお楽しみに。





地域で行われている行事や取り組みは守り続けられています。

あれもこれも美味しいね
次は何を食べよう

夏祭り



2日間にわたる夏祭りは浜甲子園の一大イベント。前に団地に住んでいた友達が泊まりに来てくれることも。たくさんのお屋台や盆踊りで街が一気に盛り上がります。

中本 晴哉さん(12歳)

素敵な眺めに癒されながら
心も身体も健康に

マラソン大会



今年で11回目を迎えたマラソン大会。浜甲子園自慢の自然の浜から見える景色は絶景です。みんなで走って健康な身体をつくってもらえたら嬉しいです。

井上 進さん(85歳)

子どもも大人も力を合わせて
べったんべったん

餅つき大会

小さな子どもから力持ちのお父さん、頼りになるご年配の方々まで。多世代が協力できる大切な交流の場である餅つき大会。団結するから毎年美味しいお餅が出来上がります。

藤澤 幸一さん(78歳)



「いってらっしゃい」
今日も元気にハイタッチ

見守り

小学生が安全に登校できるよう活動している「見守り」。今ではすっかり顔見知りになった子どもたちからのあいさつには毎朝元気をもらっています。

西坂 昇司さん(77歳)



想いを踊りにのせて
私たちも地域の一員

文化祭



毎年ダンスを披露させていただいている文化祭。見に来て下さる方々の温かい拍手にいつも活力をいただきます。これからもっと住民の方々と交流して、私たちからもダンスで元気をお届けしたいです。

岩崎 華穂さん(17歳)

助け合い
命を守るための大切な訓練

防災訓練



火を消火器で消せるなんてビックリしました。憧れの真っ赤な消防車に乗せてもらえるという貴重な体験もできました。とても寒かったけど、おしゃべりしながら食べた豚汁にみんなでほっこりしました。

林ヶ谷 桃愛さん(8歳)



TRAILS OF HAMA CO-SHIEN



浜甲子園の軌跡

新しい浜の手スタイルをつくってきた、
憧れのニュータウン

阪神甲子園駅前には春夏の高校野球が開催され全国から学生や応援団が集まる甲子園球場が広がります。そこから徒歩圏の浜甲子園団地エリアは、甲子園浜が広がり、春には桜が咲く自然豊かな街並み。開発が進み、憧れの地が今また新しい一歩を踏み出しています。

第一回納涼大会は
一万人の賑わい。
半世紀を歩んできた街
昭和37年、単一団地として関
西初の大団地が誕生。昭和39年、
浜甲子園団地自治会が発足。
昭和43年に開催された「夏のお
祭り」では、中央広場は三千人
の人で埋まりました。また、初
めの納涼大会は、一万人もの
人で賑わいました。今も変わら
ず多世代が集う夏祭りは、街の
風物詩です。

空・風・海の風景を
継承しながら、
街の再生が現在進行中

平成14年、浜甲子園団地再生
事業「まちの再生運営協議会」
が発足し、憧れの街が建替工事
への第一歩を進み始めました。
平成17年10月には、「浜甲子園
さくら街」への入居が開始。変
わらない自然の景色、人と人との
つながりを大切に守り続け、
新しい住民との生活を送る準備
は整っています。

関西初！「PPP方式」によるエリアマネジメントを採用。
公民連携で笑顔あふれる活動をサポートします。

PPPとは…公民が連携してまちづくりを行うこと
をPPP（パブリック・プライベート・
パートナーシップ：公民連携）と呼ぶ。



みんなでつくる、みんなが集まる。
コミュニティの拠点「HAMACO：LIVING（浜甲リビング）」。

エリアマネジメント街区の一角にで
きるみんなの家「HAMACO…
LIVING」。普段、二人でお家
にすることが多い、おじいちゃん、
おばあちゃん、パパ、ママの帰りを
待っているお子さんの一人の時間。
ふとした時に、歩いて向かうと、
街のみんなが集まっている場所
「HAMACO…LIVING」。た
わいもない会話で笑い合い、辛いこ
などがあれば話を聞いてもらえる。
土日は、パパも一緒に出かけて、子
どもが遊んでいる横で将棋に没頭！マ
マはお隣に座ったおばあちゃんに新
しい煮物メニューを教わる。

そんなお家は、時には趣味や学
びの場になります。手芸やお料
理、絵画、書道など教室を開講す
ることもできます。生徒になったり
先生になったり、その場その場で自
身の役割も変化し、普段の生活に
ちよつと彩りを加えて楽しい暮らし
を送るきっかけを与えてくれます。
用意されているのは空間だけ。

さあ、あなたはこの場所では何を感
じ、何をつくり出しますか。



子育て支援、趣味の充実、健康、防災など
ご近所との助け合いで暮らしにゆとりを築いていきます。



普段の生活に彩りを添えて
暮らしやすさを築く

浜甲子園での取り組みにおけるテーマは
3つ「子育て」「健康」「防災・減災」です。
安全・安心に地域で育てる子どもの
居場所をつくり、お父さん、お母さんへの
サポート体制を整え、住民全体の健康を
保つためのふれあいの場の創出。そして、
いざという時に助け合える意識つながら
を築いていきます。ここでは具体的な
取り組みの部をご紹介。
この街でどんな暮らしが描かれていく
のでしょうか。



いつもの食事が笑顔で彩る
お腹も心も満たされる食卓

一人で食事をするよりもみんなで
食べるごはんってなぜあんなに美味しい
のでしょうか。

HAMACO LIVINGで近所
の方が栄養バランスも考えた献立で
つくづくだる食事をみんなで楽しく
食べられ、協力してお片付け。無理のな
い頻度で開始し、徐々に住民の皆さんの
力で実施回数を増やしていきますし
う。働いているパパ、ママもお子さんが入
で家にいるのではなく、地域の方の笑顔
とやさしさに囲まれて、食事をして
いると思うと安心ですね。



助け合いで笑顔が増える
安心の子育てサポート

「あゝ仕事が終わらない、お迎えに間
に合わない！」と働いているママは時間に
追われる毎日。どうしても間に合わない
時、誰かにお願いできたら…と思われ
ることはよくあるのでは？

そんな時のために、近所のサポート
ママにお願いをして、「また何かあれば
言ってね。」と声を掛け合うお互い様の
つながりをつくっておく。地域で助け
合って、家族の笑顔を守る株式会社
As Mamaが協力してバックアップ。
定期的に子育てイベントも行われ、子育
て情報も得られます。



有事の際の備えができる
共助を学ぶ防災研修

「大きな地震が起きたら、どこに逃げ
るの？」や「家族と連絡を取り合う
の？」生活をする上で漠然とした不安は
消えない。その時にならないと状況はわ
からないけれど、想定して備えておくこ
とは今からでもできるのでは？

年に一度のワークショップ、防災訓練でいざ
という時に混乱しない状況を地域でつく
る共助体制を整えておくということは
非常に大切です。防災減災研修などを
実施しているCommunity
Crossing Japanと一緒に、
助け合える街を築いていきましょう。



地域や街の人たちと顔見知りになると、
困った時も助け合えて、毎日がもっと楽しくなっていけます。



街を家のように感じる。

あたたかいつながり、ぬくもり、やさしさがある街。

「街を家のように感じる」とは、この街に住む人々がお互いに今日のできごと、お困りごとなどを共有して、そつと手を差し伸べ合えるような関係をつくっていくこと。街全体を家のように安心できる場所にする。でも、なぜそのような関係が大切なのでしょう？それは、今住んでいる人も、新しく住み始める人も、この街で暮らしている人がどんな人かをお互いに知っていて、ゆるやかにつながっていると、次の3つのメリットが生まれると考えるからです。具体的にどのような生活が実現できるのでしょうか。



1 暮らしを楽しむ

「子どもの習い事の送り迎えで、自由時間はない」、「家の近くで人が集まっているような場所があるといいなあ」―お子さんのいるご家庭や、ご年配の方の中には、遠くまで出かけるのは大変：と感じている方も多いはず。すぐに歩いて行くことができるご近所に友人が増えると、何気ない日常が笑顔の飛び交うリビングのようになります。



2 課題を解決できる



「初めての子育て。何から始めればいいのかわからない。」―一人暮らしで、災害が起きたらどうやって逃げるのか考える不安―「悩んだ時、身近に相談できる人がいて、また周囲からも見守る視点があること。そんな人と人のつながりがあることで、孤独な子育て、災害、犯罪、人の無縁化など多くの社会課題の解決につながります。



3 住宅管理の質を高められる

「順番で管理組合の理事になったけど、どうも議論しづらい雰囲気だ」―住宅管理の現場にて議論しづらいという声をよく聞きます。それは住宅内に良好な人間関係が築けていないから。イベントで顔を合わせたり、日頃から挨拶を交わしたりする仲ならば、より建設的で活発な議論がしやすくなり、スムーズな合意形成につながります。



家のようなあたたかい街をつくるために、
連携・協働する方々に、
これからの街への期待を伺いました。



子どもたちのために、
防災のために、
大好きなこの街を
守り続けます。

浜甲子園団地自治会では、これから育っていく子どもたちのために夏祭りや文化祭などの行事を続けています。成長すればどんどんつながりは薄くなりがちですが、「帰ってくれば変わらない街が待っている」「災害など何か起きた時、声をかけ合って助け合える」そんな街であり続けるために、自治会活動を続けていきます。

新しく様々な方が住み始めるにあたって、若い世代の方々とたくさん交流を図り、自治会で実施している恒例行事でも連携をして盛り上げることができればと思っています。一緒に、楽しみましょう。



浜甲子園団地自治会 会長
つづみ とみこ
堤 登美子 さん

地域に根ざした
大学として、
みなさんと共に
まちづくりに取り組む

浜甲子園のまちは半世紀を経て成長し成熟を迎えましたが、他地域と同様に少子高齢化等の課題を抱えています。まちの一員でもある武庫川女子大学では、団地の建替事業を契機に2008年より交流の場づくり等のコミュニティ支援を始め、現在では学内の複数の学部・学科等が各分野の専門性を活かし、参加型コンサート等のイベント開催や健康相談、食育教室等、取り組みを拡大してきました。今後も地域のみなさんと共に、子育て・高齢者支援、健康づくり等、住民主体のコミュニティ活動の充実、地域の活性化に取り組んでいきます。



武庫川女子大学 生活環境学部 講師
みずの ゆうこ
水野 優子 さん

一人ひとりが
「よき避難者」となり、
ともに助け合うことが
必要不可欠。

災害時に、目の当たりするのは、通信も交通も寸断されて相互に連絡も取れず、現状把握すら困難な状況。そんな中、信じられるものは、自分自身であり（自助）、そうやって腹を据えた個人同士の助け合い（共助）です。臨機応変に助け合う力が求められます。これを言語化したものが、「一人ひとりがよき避難者をめざす」というものです。

私たち復興応援団とCCJ（※）が展開する「防災減災ワークショップ」は、「よき避難者」を育てるために設計されたもので、浜甲子園でも開催予定。大切な命を守るため、一緒に考えていきましょう。



一般社団法人 復興応援団 代表理事
のりひと
佐野 哲史 さん

（※）Community Crossing Japan（P5参照）

「こうなったらいいな」を
実現する場所がコミュニティ
地域の助け合いで
ママの夢を叶えましょう。

「出産を機に」、「ご主人の仕事の関係で転勤に」と女性が職場を離れる瞬間は様々な場面で訪れます。そして、復帰する時には、「歳だから働けない」などと限定的な発言が増える傾向があります。

しかし、働き方は様々、一人ひとりが持つスキルを企業は求めているのです。そんなママと企業を繋ぐために立ち上げたサービスが「エリアマイスター」。ママの活躍の場が広がっています。

ママが働くためには、地域で助け合って子育てをすることが必要不可欠。つながりをつくり、一緒に達成感を味わって過ごしていきましょう。



ママントレ 代表
すざわ みか
須澤 美佳 さん

エリアマネジメントがめざすのは、時代を超えて愛される「ふるさとのような街づくり」。

あたたかなつながり、やさしさがある街を住民とともに作るお手伝い

浜甲子園団地再生事業地域が「あたたかいつながり、ぬくもり、やさしさがある街」として続くためのお手伝いをする「一般社団法人 まちのね浜甲子園」。街を守られてきている方々、そしてこれからこの地域で活動する方々と連携、協働を始めます。ここに住む皆さんも同じ街を守る仲間です。日々の暮らしの中で、ゆるやかなつながりを保つ街を一緒に築きましょう。



※「一般社団法人 まちのね浜甲子園」は、設立申請準備中となります。尚、街区事業者の活動は開発終了までの期間となります。

1986年大阪府生まれ。株式会社リクルート入社。住宅事業部営業、編集担当。2012年、夢だった「話し手」の仕事に就くため独立。ラジオの中でも「防災ラジオ」の重要性を感じ、2013年、都内の災害FM局に入社。災害時、役に立つ媒体を確立するため、日々地域を駆け回る。阪神淡路大震災、東日本大震災での被害を身近に経験し、日常が一瞬で変化してしまうことを実感。少しでも被害を減らすために、共助で助け合う上で重要な「日頃の地域のつながり」の創出に携わりたいと一念発起。2015年10月より、HITOTOWA Inc.に所属。首都圏や関西圏におけるネイバーフッド・デザイン・プロジェクト、サッカーと防災減災を同時に学ぶ「social football COLO」、よき避難者を育てる「Community Crossing Japan」に携わる。多種多様な生き方を享受し、人の話を聴くことが大好き。将来は、教育機関で防災減災について子どもに伝えたいと考えている。

HITOTOWA Inc.
谷 優 香



変わらないもの、新しく始まるもの、すべてを大切に。今までの取り組みを活かし、新たな音色を奏でます。

KEIHAN
京阪電鉄不動産

コンセプトは住まう家族
みんなで集う庭
自分たち自身でつくる
Ⅱ「ザ・サードリビング」

「ザ・サードリビング」はマンションの住民が気軽に集える「場」として企画されました。そして、この「場」に集った住民同士が円滑な交流を図れるように設けられたのが「ライブラリーラウンジ」。知らない住民同士が本を媒介にして、自分をさらけ出し、お互いを知るようになる。本という誰もが親しめる道具を使って、ワークシヨップも開催されました。

簡単なルールでいつでもだれでも参加可能。家族や仲間が集まって利用できるキッチン、テーブルも完備。「場」が街に開かれ、近隣住民も集う「街のリビング」になることが期待されています。



フジ住宅株式会社

一緒にの時を過ごす
すんなり街にとけこめる
これから始まる新生活を応援
Ⅱ「街イベント」

「ここに住もう」と決めた後、新生活への期待が膨らみます。フジ住宅では、ご入居されている方、ご入居前の方、皆さんで、これから暮らしていく街の中心で、クリスマスやハロウィンなど季節に合わせた体感型イベントを開催しています。

新しくご近所に住まう方と出会い、一緒に時間を過ごすことで、これから始まる暮らしへのワクワク感をお届けします。お子様のお友達、ママ友やパパ友の和が広がるお手伝いも。ご入居後のコミュニティ形成を応援し、皆様と長いつながりを大切にしています。



積水ハウス株式会社

「次回はいつにする？」
集まるのが楽しみに
横のつながりをつくる
Ⅱひとえん

街におけるコミュニティを育てる街づくりを進めている積水ハウス。その環として実施しているのが、近隣の人々が集まり食事などをする「ひとえん」という取り組みです。

「ひとえん」を実施する際は、手料理を持ち寄り、自然観察会を開いたり、準備から片付けまで協力し合います。実施後は、子ども連れのお母さんたちが、街のなかの公園で井戸端会議を楽しみ、街で遊んでいる子どもを褒めたり、注意したり、街全体で子どもを育てる環境も得られます。



長谷工 コミュニティ

「せーの！」の掛け声で
力を合わせ、涼を得る
心も気温も安心の温度に
Ⅱ打ち水大作戦

古きよき暮らしの知恵を復活させ、力を合わせて地球温暖化防止に取り組もう！という試みが国土交通省環境省の後援により2003年から始まった「打ち水大作戦」。

お子様からお年寄りまで、同じマンションに住まう方々がつになり、「打ち水」に取り組み、住民同士の交流や地域コミュニティの活性化を目指します。打ち水をするには、①お風呂の残り湯を「二次利用」②家にあるペットボトルなど、水を入れる容器を選びます。そして、ルールを守りながら大人も子どもも「せーの」でまき、真夏の気温を下げましょう。



街の方々の浜甲子園への想い、浜甲子園の未来に期待すること。

浜甲子園に長くお住まいの方、新しく移り住んで来られた方、浜甲子園に関わってこられた方、小さいお子様からご年配の方まで幅広い世代の方々のひとりひとりの想いをたくさん伺いました。思ってもなかなか口に出ることが出来ない想いを、文字として白いキャンパスに書いていただきました。



武庫川女子大学のこれまでの取り組み

浜甲子園団地の建替を機に、武庫川女子大学の生活環境学科・音楽学部・薬学部の学生と国際健康開発研究所と団地の方々と共に2008年から始めました。



エリアミーティングでの取り組み

浜甲子園にお住まいの方や関わってこられた方とミーティングを重ね、団地の目標や課題を発見でき、住民の方々と学生で解決方法を考える大切な機会となりました。



最初は「ディスカバー浜甲子園」と題して団地の魅力と暮らす上での課題を再発見しました。これからの浜甲子園を考えるために、現在住んでいる方を交えて学生の目線でみつめました。



2回目は考えを深め合うため、3つに絞ったテーマに沿う浜甲子園の課題について話し合い、改善策を考えます。それにより共通認識が生まれ共感し、納得、確信へと繋がります。



3回目では、第1回、第2回と回を重ねて何ったことをもとに、各々課題と改善策を出しました。ひとりひとりが浜甲子園で何ができるかどんな役割を持つか宣言する場となりました。